

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「部活動に所属する生徒に、どのような声掛けや指導を行っていますか」 (3年生の4月～6月を中心に)

▶引退前から学習と部活動の両立を意識づける

引退以前に働きかけを行い、学習を始めさせていなければ、引退後にすぐ学習を始められないので、3年生の4月には声掛けを始める。

部活動に所属する生徒には、「今日やることを明日に延ばすな」という声掛けをします。その積み重ねが、学習理解とモチベーションの向上につながることを説いています。

「平日、部活時間+家庭学習時間が5時間を超えていれば、引退後、そのエネルギーと時間をそのまま勉強に向ければ成功する」と指導している。

毎日の練習の終わりに学習に対する事柄を必ず話している。

▶部活動に所属しながら学習を促す環境を整える

3年生は放課後の自主学習を18時30分まで設け、部活動の練習後に合流させている。

休日の部活動の前後に勉強会を行っている。

部活動と学習の両立に悩む生徒たちが多いので、顧問にも協力してもらって下校時間の厳守に努めている。

職員会議で模擬試験の結果等の報告に部活動名を入れることで、各部の顧問が生徒の学習の状況も把握して、部活動でも声掛けができるようにした。

▶引退までは部活動に熱中させる

部活動は3年生の最後の大会まで取り組むよう、時間の使い方を中心に指導している。部活動を最後まで続ける生徒は、大学受験でも妥協しない。

引退後は切り替えなければならないことを自覚させた上で、引退までは部活動に対して納得できるような活動をさせる。

部活動で結果を残す生徒も多くいるので、「引退までは部活動もしっかりやりなさい。引退後に伸びるのは、本気で部活動に取り組んだ人だから」と声を掛けています。部活動で結果を残したら大いに褒め、「よし、これで学習にも力が入るね!」と励まします。

▶部活動引退後、受験勉強に意識を切り替えさせる

部活動の引退時期(大部分の生徒は6月)に学年ホームルームを開き、気持ちの引き締めを図る。その際、卒業生の成績推移なども作成し、今後の学習活動によって合否が左右されることを強調する。

時間の使い方の再考。部活動の練習時間がなくなった分、どのように1日を使っていくのかをまずはしっかり考えさせる。

本校では、7月に文化祭や合唱コンクールを行っている。部活中心から急に勉強中心に生活を変えることは難しいが、こうした学校行事の準備期間に指導するなどして、徐々に意識を切り替えさせている。

▶部活動の経験を受験勉強につなげる

勉強もスポーツと同じであることを繰り返し説いている。基礎練習から練習試合(模擬試験)、本番へという流れや、教わるよりも自分の反復練習(問題を解く)であることなど。

部活動も学習も、短期的な目標だけにとらわれるのではなく、将来のためのトレーニングをしているのだということを繰り返し伝えている。

部活動で獲得した忍耐は、そのまま学習に生きると指導する。補習等も休まない習慣化につながっている。

「部活動で培った根性は必ず受験勉強で役立つ。部活動引退後、勉強に集中し、急激に成績が伸びた先輩を何人もみてきた。がんばれ!」と声をかける。